**１４　学校教育活動の再開準備**

）

　　学校をいつどのように再開するかは、災害の程度等によって異なる。また、学校が避難所となっている場合、避難所の機能を維持したまま学校教育を再開することも考えられる。

学校再開にあたっては、以下の項目を総合的に判断して行い、地元自治体、避難所運営会議及び県教育局の担当課と協議するものとする。

**【学校再開にあたってのチェック項目】**

□　使用可能な学校施設の把握

□　被害を受けた学校施設の修理

□　勤務可能な教職員の把握

□　登校可能な児童生徒の把握

□　学校周辺の安全点検の実施

□　応急教育に係る計画の作成

□　登校日の決定及び児童生徒等・保護者への通知

□　教科書等の学用品の援助が必要な児童生徒の把握

□　授業料免除を希望する児童生徒の把握

□　児童生徒等の心のケアの対応

**１　使用可能な教室・施設の把握**

・使用可能な普通教室、特別教室等の数を調査する。

・使用可能な教室が少なければ、短縮授業の検討や被害を免れた近隣学校施設や公共施設の利用を検討する。

・必要に応じて、臨時に環境衛生検査を実施し、検査結果を保健体育課に報告したうえで必要な措置を行う。

（参考）学校環境衛生基準（文部科学省）

第６　雑則

１　学校においては、次のような場合、必要があるときは、臨時に必要な検査を行うものとする。

（２）風水害等により環境が不潔になり又は汚染され、伝染病の発生のおそれがあるとき。

**２　被害を受けた学校施設の修理**

必要に応じて、教育施設課と調整を取りながら実施する。

**３　勤務可能な教職員の把握**

教職員及びその家族の安否、被害状況等を踏まえ、勤務可能な教職員数を把握する。

**４　登校可能な児童生徒の把握**

　　安否確認や被害状況の結果を踏まえ、登校可能な児童生徒数を把握する。

**５　学校周辺の安全点検の実施**

・安全点検の実施にあたっては、明細地図等を携行し、危険情報を記入する。

・次の箇所は特に念入りに点検することとし、余震の発生等によって登下校中の児童生徒等に危害が及ばないか確認する。

◇ ブロック塀や石垣、自動販売機などが倒壊する危険のある箇所

◇ 屋外広告物や看板、窓ガラスなどが落下する危険のある箇所

・道路の地割れ、がけ崩れの危険性についても、十分に点検する。

・安全点検の結果、危険がある場合は、保護者等と協議のうえで注意喚起や経路変更などを決定し、児童生徒等に周知する。

・必要に応じて、教職員による安全監視と通学指導を行う。

**６　応急教育に係る計画の作成**

・校舎等のうち安全が確認された箇所を用いるほか、必要に応じ、他施設の借用や仮教室（仮設校舎）の建設などを検討する。

・被害情報等を踏まえ、必要に応じて次の対応を取る。

◇授業形態の工夫（始業遅延、短縮授業、２部授業、複式授業など）

◇臨時の学級編成・時間割の作成

◇教職員の再配置・確保

◇学校行事（卒業式等）の実施方法の工夫

　　・学校施設が避難所として使用されている場合、学校教育の再開に向けて、避難所運営組織と協議を行い、立入禁止区域の確認・動線設定（学校関係者と避難者の動線を区分）・生活ルール（活動時間帯や施設等の利用方法等）について、確認する。

**７　登校日の決定及び児童生徒等・保護者への通知**

　　登校日の決定については、地域住民、避難住民等の理解を得たうえで準備を進め、その時点で実施可能な方法（「まちｃｏｍｉメール」等の民間メール、学校ホームページへの掲載、自治会掲示板へのビラ貼りなど）により通知する。

**８　教科書等の学用品がない児童生徒の人数を把握**

学用品がない児童生徒の人数を把握し、不足分の手当てについて担当課と協議する。

**９　授業料免除を希望する児童生徒の把握**

　　授業料免除を希望する児童生徒を把握し、財務課に申請する。

**10　児童生徒等の心のケアの対応**

児童生徒等、教職員等によっては、大きな災害を経験すると表情は表面的には普段と変わりなく見えるが、心の奥深いところには心的外傷の問題としてダメージが大きく残り、このことがその後の社会生活をしていくうえで心に様々な影響を及ぼすことが指摘されている。そのため、日頃から児童生徒等の健康観察を徹底し、情報共有を図るなどして早期発見に努め、適切な対応と支援を行うことが必要である。また、心の症状のみならず、腹痛や頭痛、眠れない、食欲不振など身体症状にも注目して行うことが肝要である。

心のケアの支援体制は、校内で十分共通理解をしておくとともに、保護者や学校医、教育相談機関、精神保健の専門機関等と連携を密にし、的確な対処ができるようにしておくことが必要である。特に障害のある児童生徒等については、家庭との連絡を密にして対応することが重要となる。